上矢作小学校だより

大船山

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

第　8　号
令和 4 年 7 月 20 日
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

顔も名前も知らない人たちの働きに思いを馳せる

校 長　細江 幸次

70日間の1学期も本日で終業。明日から37日間の夏休みに入ります。1学期の振り返りと夏休みのめあてを大切にして、有意義な夏休みにしてほしいと思います。

夏休み中には、家族とどこかに出かけるような楽しみな予定もあることでしょう。小学生くらいの子どもたちは普段の生活と違う、非日常を好む傾向があると聞いたことがあります。その非日常とは、学校生活でいえば運動会や遠足、社会見学、修学旅行などの学校行事がそれにあたります。ご家庭でいえば、家族旅行や親戚の家に行ったり、親戚が訪ねてきたりすること、お祭りといった地域行事でしょうか。いつもと違う場所にいること、人に出会うこと、普段にないものを見たり聞いたりすることは子どもたちにとって刺激的なことなのだと思います。

今から15，6年ほど前に大病を患い、まわりの人たちに大変なご心配やご迷惑をかけたことがあります。年度末の大切な時期だったので、申し訳ないという気持ちと自分の身体を自由に動かせないもどかしさを感じながら約1カ月の入院生活を送りました。その間、私の身体を気遣い、お世話していただいたのは担当医や看護師、療法士の方々でした。病気になって初めて出会う方々にこんなにもお世話になっていることに不思議さを感じ始め、よくよく考えてみれば私たちの暮らしの大半は顔も名前も知らない人たちの働きによって支えられているということを考えるようになってきたのです。中学校を舞台にした人気ドラマ「3年 B 組　金八先生」の脚本を書かれた小山内美江子さんも次のようなことを記されています。

> 食事といったら、テーブルの上に並んでいるもの、と思う子はイヤなのだ。
> 特別に感謝してもらう必要はないが、子どもといえど、食事がどんな段取りを経てテーブルに至るか、そのプロセスを理解できないと困った大人になる。　小山内美江子(脚本家)

今年度の修学旅行では6年生の上矢作っ子たちが旅行の先々でお世話になった方たちへ幾度となく感謝の言葉を伝えていたことに私はとてもうれしくなりました。先に私が述べたようなことは6年生くらいになってようやく理解できることなのかもしれません。しかし、普段、学校生活で呼びかけている、「次に使う人のためにトイレのスリッパを揃えよう」「出入り口の扉を開けたらきちんと閉めよう」「来た時以上に美しく」‥‥。これらのことは誰かの役に立っている顔も名前も知らない人になる練習だと私は思っています。夏休み中、非日常を楽しんでいる時に、そんなことに立ち止まることもひとつの学びかなと思います。

修学旅行　ホテルでの夕食

上矢作っ子の活躍

＊恵那市歯科医師会　口腔審査　優秀賞　6年　大島珠令、早藤博之
＊恵那市学校保健会　歯の健康優良児審査　優良賞　6年　安藤由真、夏目健士郎